

Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年

2022~2023年度クラブ目標

『想像しよう、未来のロータリー
創造しよう、これからのクラブ』



イマジン
ロータリー

会長 高 畠 裕
幹事 車 田 裕 介



2022-23年度国際ロータリーテーマ

第1726回例会

令和4年9月8日(18:30~19:30)

○ソング

- 四つのテスト

○ビジター

白河商工会議所 青年部専務 吉見優一郎様
ジロ・デ・シラカワ実行委員会 事務局 緑川じゅん子様

○スマイルBOX

- 高畠裕会長（緑川さん、吉見さんようこそ。近々の入会お待ちしております。鈴木委員長、本日の卓話ありがとうございました。来週は議会の為に欠席で申し訳ありません。佐藤会長エレクト、よろしくお祈りします。）
- 金田昇会員（YEG、吉見さん、緑川さんようこそ。ジロ・デ・シラカワの成功をお祈りしています。9月誕生日のお祝いありがとうございました。）
- 諸橋和典会員（久しぶりのリアル出席です。先週ZOOMでみていた早口の落語が週報で文字になっていて感動しました。）
- 永野文雄会員（ゲストの緑川じゅん子様、吉見優一郎様ようこそ。白河西ロータリークラブを楽しんでください。雑誌広報委員会の卓話ありがとうございました。）
- 成井正之会員（商工会青年部、吉見様、緑川様ようこそ。本日の大谷翔平スマイルは9月1日30号、9月5日31・32号、9月8日33号です。気持ちがスカッとしますね。）
- 藤田和克会員（雑誌広報委員会の鈴木委員長、卓話ありがとうございました。）



8月19日 米沢中央 RC に訪問

▶第1726回例会出席状況 (R4年9月8日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	52名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	66名
Ⓒ ①の出席者数	26名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	2名
Ⓕ ②の出席者数	10名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	38名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	62
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	61.3%

▶例会日: 第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30~19:30)

▶例会場: 白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局: 〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間

高島裕会長



皆さん、こんばんは。もうすっかり秋らしくなってきました。また、台風も11号に関しては、この辺は特に大きな被害がなさそうなのでちょっと一安心というところであります。それでは、まず本日のお客様を紹介をしたいと思います。ジロ・デ・シラカワ実行委員会の事務局の緑川じゅん子さん。そしてもう一方、白河商工会議所専務、吉見優一郎さん。後程、お二人にはジロ・デ・シラカワのPRを兼ねてということでお時間がありますので、よろしくお願ひしたいと思います。まず、皆様にご報告をしていかなければいけないことが何点かあります。まず、大変遅くなりました。こちら、前金田パスト分区分ガバナー補佐のほうからご奉仕いただきました6万円、スマイルのほうに入れさせていただきます。金田さん、ありがとうございます。続きまして、先日白河西ロータリークラブから米沢中央さんのほうにお邪魔した際に、私に対して卓話のお礼ということでいただきました。これも選挙違反になりますので、私貰うわけにいきませんのでクラブのほうにスマイルとして入れさせていただきます。それから、事務局のほうに届きました米沢さんから我々が先日お邪魔した時と、前回米沢中央さんがこちらに来ていただいた時の写真があります。こちら幹事報告と一緒に回させていただきますので、ご覧いただければと思います。それからもう一点、こちら第一ホテルさんの駐車場に車を置く際に使用するものなのですが、まだお車のナンバーを登録されていない方もいらっしゃるかと思います。こちらのほう登録されてない方は、なるべく早く吉田さんのほうに自分の車のナンバーを登録していただいて、駐車場にとめる時にはダッシュボードにこちらのカードを置いていただければ、料金を支払わないで済むということになっております。あと、そちらに用意してあるものでまだこちら貰ってない方、吉田さんの前の所にありますので、帰りに持って帰ってください。ナンバーを登録されてない方はこれから吉田さんのほうにナンバーを言って、新たにこういったものを作っていただくようお願いしたいと思います。来週は、16、17、18と白河の提灯まつりが開催されることになっております。参加される方もいらっしゃると思いますが、久しぶりにお祭りということになっております。内容

は、16日は神社神輿の町内渡御ということで、各町内を16、17、18、3日間に分けて皆様の町内を神社神輿が通る。これもまた、コロナ禍ということもありまして人手が少ない。あるいは、担げないという町内のためにトラックにて神輿が町内を巡るといふ、ちょっとしたコロナならではのスタイルに変わりつつあります。また、夜の提灯まつりの行列に関しましては、17、18の両日ですね、17日が天神町のセブンイレブンとか郵便局、あの辺からスタートになります。18日は、向寺からのスタートというふうになっております。また、今回は23町内が全て神輿出したりとかというのではなく、神社の神輿を全町内で担ぐ。そして、高張提灯も全町内で一組の高張提灯を持つ。そして、元方さんも先達提灯も高張提灯もすべて白河市の提灯まつりとして一つの町内の形を23町内で行うというふうな形になっております。それも参加するしないは各町内の自由となっております。今現在、高張を持つ中学性に関しては約40名くらいの中学生在がいらっしゃるといふふうに伺っております。また、不織布のマスクの上に専用の神社のマークが入ったマスクを配布して二重マスクで参加していただくというような、本当にウィズコロナというような白河提灯まつりになりつつあるという形で進んでおります。こういった祭もコロナと共に進んでいかなければならないというふうになっております。西ロータリークラブはハイブリットということで本当に現場でもやる、ネットでも見れる、そういうハイブリットでやっています。お祭りもコロナと共に変わっていかねばならない。そういうふうな時代になってきてるんだなと思っております。ジロ・デ・シラカワに関しても、こういった形で今回なるのかということも、後程緑川さんのほうからご説明あるかもしれませんが、そういった形でコロナと共にという形で進んでいく世の中になってくるのかなと思っております。今日はお二方の話もあり、それから卓話もありということなので、会長の時間はこの辺にさせていただきますが、本当にこういう状況の中で皆さんにご参加いただいていること、心より感謝申し上げます。また、今月末にはホームミーティングのほうも始まります。少人数ではないかもしれませんが、7人8人の組み合わせで是非こういった機会に、忌憚のない意見を皆さん集まっていたらいい、意見交換していただければいいと思っております。本日もどうぞよろしくお願ひします。

■幹事報告

車田裕介幹事

- 国際ロータリー日本事務局 業務推進・IT室：基本的教育と識学率向上月間 リソースのご案内
- ガバナー事務所 佐藤直子：ロータリー文庫 決算報告書の件
- 白河市国際交流協会会長 内藤義久：「初級英会話講座2022年」開催について（案内）
- 地区事務所 芳賀美宝子：組織規程2022年7月版について
- ロータリーの友委員会委員長：新型コロナウイルス感染症に関する友事務所対応の件（お知らせ）
- ガバナー 佐藤正道、地区大会実行委員長 星富士夫：国際ロータリー第2530地区 2022-23年度地区大会資料送付のご案内

白河商工会議所青年部 専務理事

吉見優一郎様



皆様、改めましておぼんでございます。本年度、白河商工会議所青年部専務理事を務めさせていただいております吉見優一郎でございます。本日、会長のほうがちょっと所用がございまして

来られませんでしたので、わたくしと実行委員の緑川とで来させていただきました。おかげさまで今年でジロ・デ・シラカワが10年目を迎えることになりました。昨年、一昨年とコロナ禍で開催を中止とさせていただいたんですが、10年目の節目の年ということで、今年はなんとしても開催に向けて我々も青年部として実行委員の方と共に動いてきた次第でございます。また、実はこちらジロ・デ・シラカワ10年目と言いましたが、第1回目が2012年ですね。今年我々青年部も40周年を先日迎えて、40周年の式典をさせていただいたんですが、こちらのジロ・デ・シラカワがスタートしたのが、我々が30周年の際。実は、その30周年の実行委員長をしていただいたのが、こちらにいらっしゃる高島会長なんでございます。その際に、高島会長が実行委員長をしていただ



た30周年の記念の際に発足したのが、こちらのジロ・デ・シラカワのレースになっております。今年も、なんとか10年目ということで節目の年を迎えますので、開催に向けて頑張っていきたいと思っておりますので、是非皆様のご協力をいただきたいと思ひ、本日は参加させていただきました。どうぞよろしくお願ひいたします。



■本日のプログラム

雑誌広報委員会担当例会

○雑誌広報委員会

鈴木典雄委員長



皆さん、こんばんは。雑誌広報委員会の鈴木でございます。今日は担当卓話ということで、ロータリーの友について卓話していきたいと思ひます。お聞き苦しい点が多々あると思ひますが、ご容赦の上よろしくお願ひします。9月はロータリーの友月間となっております。2015-16年度から国際ロータリーR Iの特別月間が変更になり、それに伴い4月の雑誌月間がなくなったため、ロータリーの友委員会並びに当理事会で改めてロータリーの友について考える時間を作ってくださいという思ひで、9月をロータリーの友月間と定めました。ちなみに、ロータリー友の月間は日本独自の月間となっております。もう一つ日本独自の月間があるんですけど、皆さんはご存じでしょうか。もう一つは、10月の米山月間が日本独自の月間となっております。9月と10月は日本独自の月間となっております。改めまして、ロータリーの友って何ですか。ロータリーの友は国際ロータリーからの情報を伝える雑誌で、それと日本のロータリーの会員が親睦を深めるための雑誌となっております。そして、ロータリーの友は国際ロータリーR Iから認可

を受けた機関雑誌となっております。R Iに認可された機関雑誌は世界に30種類以上あります。スクリーン向かって左側から、アメリカ、日本、台湾、韓国、ノルウェー、いずれも7月の表紙となっております。日本のロータリアンはアメリカ本部で発行しているロータリー、もしくはロータリーの友を購読することになっています。今日は、R Iの認可を受けるための条件の一部を紹介していきたいと思えます。国際ロータリーの認可を受けるために、①R Iが指定した記事を記載すること。というのは、毎月掲載しているR I会長メッセージや財団管理委員長メッセージなどのほか、国際大会参加推進の記事、次年度に備えるための会長エレクトのQ & Aなどの記事があります。②年の6回以上発行すること。世界では30以上ある機関雑誌の中には、毎月発行していない雑誌もあります。日本の場合は毎月1回発行しているので、年12回発行することになります。最近では、印刷媒体ではなくデジタル版だけを発行している雑誌もあります。③雑誌の内容の50パーセントはロータリーに関係した記事であること。ロータリーの友はロータリアンの会報誌であります、ロータリーの専門誌ではありません。ロータリーの中で話題になってること。新たな取り組み、課題を中心にクラブの話題作りに役立つような記事を掲載しています。ロータリーの友を会社やご自宅に持ち帰っていただき、社員の方やご家族の方も楽しめるような記事作りとなっております。④の国際ロータリーの方針を正しく伝えること。R Iの方針、方向性への理解を深めるような記事を形成しています。これに関する様々なご意見も取り上げていますので、今回は特に①番のR Iが指定した記事を掲載することと、国際ロータリーの方針を正しく伝えることをちょっと詳しく説明していきたいと思えます。①の国際ロータリーR Iが指定する記事を掲載するというのは、先程も言いましたが毎月R Iが掲載を指定してくる記事は、スクリーンに映ってあります地球儀にR Iと書かれたロゴが付いています。ちなみに、これは7月号の記事なんですけど、これにもR I指定の記事が付いていますので確認するのもいいかなと思えます。次に④の国際ロータリーR Iの方針を正しく伝えること。ここに2枚の写真が写っていると思うんですけど、これは実際にロータリーの友には掲載できない写真です。どこが駄目かわかりますか。ヒントはこれです。ここ

に写ってるロータリーのロゴマークは古いロゴマークなので、今新しいロゴマークがこちらになっているので、古いロゴを使っている場合だと掲載はできないので、現在使われている新しいロゴを使うようにしてください。新しいロゴに関しては、R Iのウェブサイト、あとマイロータリーの中のブランドリソースセンターに形成しています。ロータリークラブだけではなく、ローターアクトクラブ、インターアクトクラブも同様に公式ロゴを使って地域社会にロータリーの統一したブランドイメージを広めていくようにホームページのほうには正しい使い方が書いてありますので、そちらも一度確認してみてください。そして、ロータリーの友はロータリーの機関誌として雑誌の表紙の上の部分にロータリーというロゴを使うことが2019年から決めつけられています。ロゴが大きすぎて雑誌の名前はロータリーとみられがちですが、日本の雑誌名はロータリーのまます。少しロータリーの上にちょっと黒い文字でロータリーの友って書いてありますので。そして、7月号の表紙はR I会長の写真を掲載することが義務付けられています。続きまして、ロータリーの友の役割としてロータリーの友は日本のロータリーの会員が親睦を深めるための会報誌となっております。ロータリーの共には表紙が二つあって、縦書きと横書きのページに分かれます。日本のロータリーの会員が親睦を深めるためのコーナーは、主に縦組みに分類されています。縦組みは、ほとんどが投稿から成り立っています。会員の旅行記や趣味など個人的な思いなどは、友愛の広場。クラブや地区の活動は、ロータリー・アット・ワーク。短歌、俳句、川柳などのコーナーもあります。横書きに関しては、イベントを告知する欄も設けております。ロータリーの友が創刊された当初は、日本のロータリークラブの数や会員が増えていったため、共通の情報をシェアし交流を図るためでその役割は今も続いています。補足になりますが、ロータリーの友は1953年1月に創刊されました。今から69年前くらいです。戦後一地区だった日本のロータリーが二地区に分割されたのが1952年7月。その少し前、4月に大阪で開催された地区大会で、分割後の二地区が情報を共有できるようにと雑誌の創刊が決まりました。その後、東西のロータリアンで協議した結果、1953年1月にロータリーの友が創刊されました。創刊号の発行部数は幾つくらいか検討つきます

か、その当時。最初の発行部数は3300部でした。最初は、全ページ横組みでスタートしましたが、俳句や短歌の欄が部分的に縦組みと横組みのページも混在するようになってきました。現在のように、横組み縦組みと別れるようになったのは1972年1月からです。今の表紙なんですけど、横組み縦組みなってます。これが大体50年くらい前の1972年の1月号から始まりました。その後、日本の会員数の増加と共に発行部数は伸び、これまで一番発行部数が多かったのは1990年代後半なんですけど、一番初めは、3300部だったんですけど、一番最高発行した部数はどれくらいかわかりますか。約50倍の14万2000部まで発行部数を伸ばしましたが、現在は9万部となっております。2番目にロータリーの友の役割として、国際ロータリーからの情報を伝えるということがあります。先程も触れましたが、ロータリーの友は国際ロータリーからの情報を伝えるという役割を担っています。このような情報は横書きの欄で掲載しています。主に、国際ロータリーからの情報のほか、特別月間にちなんだ特集を掲載しています。特別月間というのは、例えば8月は会員増強、新クラブ結成推進月間。9月は、基本的教育と識字率向上月間といった国際ロータリーによって決められている月のテーマとなっております。横書きの最初は、国際ロータリー会長メッセージで、今年度から日本語と英語で記載しています。さっきも言いましたけど、この記事には画面に映っているR I 指定記事のマークが付いております。ちょうど今日、来た時にちょっと聞いてみたんですけど、ロータリーの三大義務というのを皆さんは知ってますか。一つは、例会の出席。二つが、会費の納入。最後の三つ、そうです、雑誌の購読です。なので、ロータリーの情報とか個々の会員にロータリーの情報をシェアするための手段としてロータリーの友を購読して読むことを義務付けているということで、皆さんに毎月、友を買っていただけていただくということで、ロータリーの三大義務というのは、例会の出席、会費の納入、雑誌の購読となっております。今年度、2022-23年度の友の8月以降の表紙については、障害のある人が創造した作品を表紙として使ってます。それはアートは健常者の特権ではなく、障害のあるなしに関わらず豊かな才能と表現で彩られた作品を紹介することで、D E I 推進に取り組むロータリーの方針をアピールしています。このD E I

というのは、多様性、公平性、包括性の頭文字3文字を取ってD E I というそうです。意味はちょっとはっきりした意味がなかったんですけど、大体それぞれが持つ多様な個性が最大限に活かすことにより高い価値創出につながるということらしいので、そういった取り組みを方針としてロータリーは今アピールしております。ちょっと重複しちゃうんですけど、横組みと縦組みがある理由。これは少し喋ってたんですけど、何となくわかってきたと思うんですけど、ロータリーの友の創刊時はすべて横書きでした。しかし、俳句を掲載するようになり部分的に縦書きで掲載するようになりました。横書き縦書きが混在してましたが、縦書きで掲載する記事も増えてきたため、1972年1月号から横書きと縦書きを分けた形式になりました。この時から表紙は二つになりました。現在、横組みではR I 関係の記事、特集、ロータリーに関する理解を深める記事を中心に取り上げています。縦組みは投稿を中心に、国内のロータリークラブの活動や会員個人のエッセイを中心に、会員同士の親睦を深めるような記事を掲載しています。親しみやすく人気があるのは縦書きの欄です。私も雑誌広報をする時に、やっぱり縦書きのほうの記事を紹介するのが多いような気がします。というのは、やっぱり何となく身近なものが載っているので紹介しやすいのかなと思います。続きまして、ロータリーの友全巻がアーカイブとなり、オンラインで読めるようになりました。だから、創刊時のロータリーの友もここにアクセスすれば見れるようになったんですが、それにはクラブ単位で発行しているI D とパスワードが必要となってきます。ちなみに、**西ロータリーのI D**はちょっと口頭で申し訳ないんですけど**2530-01706**。パスワードが、**01706-221**。覚えられないですよ。なので、とりあえずわからない時は私に連絡ください。そしたら、パスワードをお知らせします。実際に、今からちょっとパスワードで入っていきたいと思うので。まず、ロータリーの友のホームページにアクセスして、先に今月号の特集で載ってますので、詳しいこと。ロータリーの友のページにアクセスして、『友』電子版アーカイブというところあるので、こちらを。ロータリーの友で入れると思います。マイロータリーとはまた別です。今月号の9月号には、ロータリーの友で検索できると引っ掛かるように書いてありますので、多分大丈夫だ

と思います。さっきのID、パスワード入力画面が出たら、さっきのパスワード。ログインできると、こういうふうに画面に最新号から、最後は多分ページ数が17ページあるので17ページまで行けば創刊号が見れると思うので、こちらを見たい物をクリックすると友の内容がオンラインで見れるようになってますので、是非一度見てみてください。創刊号なんか、なかなか見れる機会はないと思うので、貴重だと思いますので是非お試してください。このようなことから、ロータリーの友をうまく活用することによって、他の地区、クラブの活動を知ることができ、自分が役職に就いた時の活動のヒントにつながるかもしれません。そして、国際ロータリーの方向性がわかります。同じ趣味の友達が見つかるかもしれません。何より、記録として残ります。他のクラブからの連絡が入って、新しい繋がりもできるかもしれません。そして、何よりクラブが元気になると思います。そして最後になりますが、ロータリーの友にはロータリーに関する様々な情報が掲載されています。ロータリーの友はロータリーの活動や意見からなる雑誌です。そして、ロータリーの友はロータリアンを結ぶお手伝いをします。是非、この機会を利用して活用してみたいはいかがでしょうか。以上になります。

高島裕会長

鈴木委員長、本当にありがとうございました。大変参考になりました。意外と会費の納入とか、出席、そして雑誌購読と、こういった三大義務があるということは、なかなか本当に長年やってた割には意外と一つくらいしか知らないみたいなところがありましたので、大変勉強になりました。ということで、やはり何となく入ったクラブではあったとしても、入ったら入ったでやっぱり出席しなければいけない義務があるんだなということも当然わかりましたし、あとは今、自分自身に痛感しているのは、本当に早いうちから自分で何となく一生懸命やらないと、自分が会長になった時に知らないことだらけで困るんだなというのが今ひしひしと伝わっております。これから会長を目指している皆さん、是非今のうちからいろいろ覚えていただければ、素晴らしい会長になれるのかなと思っております。ということで、先程車田幹事のほうから報告があったんですが、まず10月2日に行われます

全国ロータリー野球大会東北大会なんですが、こちらやはり会の事業として考えております。ですから、皆さんにご協力お願いしますという言葉はあったんですが、ご協力というのは前夜祭のほうに参加できる方、お手伝いできる方は是非参加していただきたい。そして、2日の大会のほうも今までの練習の成果を皆さんに球場に足を運んでいただいて応援をしていただければ、それはそれですごく野球愛好会の皆さんも張り合いになると思います。是非、応援に来ることが協力していただけることというふうに認識していただきまして、一人でも多くの方にご参加いただければと思います。また、米沢中央さんとの合同例会の件も、青木さんのほうにバスのほう手配しましたので、一人でも多くの方がバスに乗って会場のほう、アサヒビール園のほうに来ていただけることをお願いしたいと思っております。また、昼間ゴルフされる方も、是非ビール園のほうに相乗りをしていただいて、ビール園のほうに相乗りで来ていただいて、そのまま運転手の方が飲まないで帰れるそんな形を作っていただければなと思っております。ゴルフの方も今、10名ちょっとぐらいいらっしゃると思います。是非、怪我のないよう、そして白河西ロータリークラブがゴルフがすごい上手だというふうに先日も米沢中央さんのほうでお話ありましたので、そちらのほうも負けることのないよう戦うからには勝って、成績の素晴らしいものを収めてきていただければなと思っております。あとは、今日このあと理事会がありまして、青年部の皆さん、そしてジロの関係の方が来ていただいたということで、こちらのほうも議題としてあげさせていただきたいと思っておりますので、理事の皆さん、このあと理事会で私の説明を聞いていただければなというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思っております。ということで、本日も多くの皆さん、お忙しい中、そしてコロナ禍の中ということではありますが、ご参加いただきましたことに心より感謝申し上げます。ちょっと余った時間を使って宣伝させていただきました。本当にありがとうございます。よろしくお願ひします。